

式 辞

平成二十八年度入学式

春の息吹に草木が芽吹き、春爛漫の好季を迎えている今日の佳き日に、文部科学大臣衆議院議員 馳 浩 先生のご臨席を賜り、また日本体育大学全国同窓会 瀧澤康二 会長のご来臨を頂き、新入生 一七四八名の皆さんをお迎えして平成二十八年度の入学式を執り行うにあたり、日本体育大学を代表して、ここに謹んでお慶び申し上げます。

新入生の皆さん！ ご入学おめでとうございます。日本体育大学は、心より、皆さんを歓迎いたします。またご両親、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。衷心よりご祝意申し上げます。本学はただ今ここに、お子さんたちをしっかりと預かりました。

さて、新入生の皆さん！ 皆さんは一二五年の歴史と伝統を有する日本体育大学で学ぶことが、ここに、許可されました。本学は体育及びスポーツに関する学問を教授し、かつまた身体と運動に関する教育と研究を推進してきた、日本で最古の私立大学です。本学の設置者である「学校法人 日本体育大学」が誕生したのは一二五年前の明治二十四（一八九一）年ですが、この時点から体育教員養成に着手し、二年後の明治二十六（一八九三）年には本学の前身 にほん 日本

たいいくかいたいそうれんしゅうじよ

体育会体操練習所」を体育教員養成学校として開設させています。そして今から六十五年前の昭和二十四（一九四九）年、新制大学として「日本体育大学」を設置し、日本の体育スポーツの指導者養成を担ってきました。そしてさらに、平成二十五（二〇一三）年四月に「児童スポーツ教育学部」を増設し、翌年の四月に「保健医療学部」を増設して、今にいたっています。この一方で、昭和五十（一九七五）年に大学院体育科学研究科修士課程を設置し、平成十（一九九八）年から博士後期課程を開設して、修士及び博士の学位を授与するに至っています。

こうして本学は日本の体育及びスポーツの発展と保健医療福祉の発展を願い、教育と研究の中核的拠点として人材の育成を図り、優れた研究と有意な情報を発信するに至っています。

二〇一八年、二〇一九年及び二〇二〇年に、東アジアでは大規模なスポーツの国際大会が次々に開催されます。二〇一八年には、韓国は平昌（ピョンチャン）で冬季オリンピックパラリンピックが開催され、二〇一九年には、東京を中心にラグビーフットボールのワールドカップの開催が予定され、そして二〇二〇年には東京へオリンピックパラリンピックがやってきました。本学は全学を上げてこの二〇二〇年の夏に開催のオリンピックとパラリンピックを積極的に支援してまいります。四年後の開催となりますので、新入生の皆さんにこの戦列に加わって頂くこ

となります。選手として、ボランティアとしてこのオリンピックとパラリンピックを成功裏に導くべく支援して欲しいと希^{ねが}つています。

本学が果たそうとしている社会的使命は建学の精神「から導かれています。その使命の一つにわが国のスポーツ文化の深化 発展に努めるとともに、オリンピックムーブメントを主導的に推進し、『スポーツの力』を基軸に、国際平和の実現に寄与する。」と掲げています。平和」の対極にあるのが戦争」ですが、昨今は、世界各地での紛争、テロは絶えず、戦禍は避けようもないのが実情です。一昨年二月に開催されたソチ冬季オリンピックにおいて、バツハIOC会長が開会式でこう主張したと報道されていたことに注目して下さい。会長は「オリンピックは人々を結びつけ、人々を分かち壁を作らず、多様性を受け入れる。」と語り、こう訴えました。世界の政治リーダーに言いたい。選手は国の最高の親善大使だ。オリンピックが発する友好や平和のメッセージを尊重して欲しい。」と（毎日新聞夕刊）、「二〇一四年二月八日」。

いまこそ、こうしたオリンピックの理念は世界中に浸透していかなばなりません。体育やスポーツの普及 進展を図ってきた本学に入学された皆さんには、人種の違い、民族の違い、宗教の違い、思想 信条の違い等を認め、その差異「ちがいを理解して、平和な国際社会の実現に向かつて欲しいと思います。

しかし、だからといって、「スポーツの力」を信じて、「平和」がやってくるのを静かに手をこまねいて「待つ」のではなく、「スポーツの力」を信じて積極的に「平和」を呼び込むことが大切です。本学は「建学の精神」を体して、国交の閉ざされた朝鮮民主主義人民共和国を代表する「朝鮮体育大学」と三回に亘って「スポーツ交流」を図りました。三度目に両大学間で「学術・スポーツ交流協定」を締結しています。この「スポーツ交流」は同時に、本学の選手たちが「平和の使者」としての、「国際親善大使」としての大きな役割を担うことでもありました。これは二〇二〇年に「オリンピック」と「パラリンピック」が開催される都市「東京」に立地する「体育大学」であるからこそ、「担わねばならない使命」であると考えています。

本学が探求せんとするキーワードは「身体であり、健康であり、スポーツであり、体育であり、そして遊びであります」。これらはいずれも現代人が日常生活をおくる上で最も重要な要件でもありません。皆さんはこの点について考えたことがあるでしょうか。

二〇一一年六月、「スポーツ基本法」が制定され、国民の一人ひとりが「スポーツを通じて健康にして豊かな生活を営む権利を手に入れました」。この法律には「若男女を、また健常者・障害者を問わず、新たなスポーツ文化の創造が期待されています」。

皆さんは本日から遊びやスポーツや体育や医療を学問として学びますが、ただ単に学ぶのではありません。人間が生きて行く上で有用なものとして学んでいきます。医学の知識は病気を治癒し、健康をもたらしてこそ意味があり、建築学の知識は家を建てることで役に立ちます。学問の多くは生活の実際とつながりをもつことによつて活きた学問になり、知識になるといわねばなりません。

私たちは、いま、スポーツの奨励と促進に歯止めがかかつてしまいかもしれない大きな問題に直面しています。体罰、暴力、パワーハラスメント、ドーピング、危険ドラッグ、覚醒剤、大麻、賭博、などの問題です。日本体育大学は平成二十五（二〇一三）年二月に「反体罰 反暴力」を宣言いたしました。いかなる事情があろうとも体罰も暴力もパワーハラスメントもこれを排除するという宣言です。

皆さんの中には、これまでの輝かしいスポーツ歴の中で体罰の名の下で暴力を受けた方、罵声 暴言 パワーハラスメント セクシャルハラスメントを経験した方、あるいはそのような場面に遭遇した方は少なくないように思います。皆さんの中に勝利のためなら多少の心身の痛みを伴つても、当然、そのような狼藉ろうぜきは受け容れるべきである、と思つている人はいませんか。もしいるとすれば、そんな考えは、直ちに、即刻、過去のものとして葬り去つてください。また、自らが高校時代、後輩に体罰という名の暴力行為に及んだ経験をもつていたら、そのあなたに、猛省を促します。

いっぽう、私たちは東日本大震災によつて引き起こされた原発事故を通して「自然」というものは制御不可能なものであることを教わりました。科学とは何か、学問とは誰のものなのか問われています。スポーツの世界も同様です。JADA、WADAの機関が設立されているのはご承知の通りですが、緻密な科学(化学)的研究を重ねてドーピング行為を隠蔽し、その行為をさらに科学的な研究によつて暴かねばならないという仕組みを、我々は必要としているからです。スポーツは誰のためのものなのでしょうか。決して科学(化学)者だけのものではないはずです。本学に入学してスポーツ科学を学ぶにあつて、このドーピング問題を人間の「のちの危機」の問題として熟慮して下さい。

また、皆さんはスポーツの世界に忍び寄る「悪魔の誘惑」と闘わねばなりません。身体の乱開発」を促すドーピングの延長線上にあるのが、危険ドラッグ、覚醒剤、大麻などの服用、使用の問題です。有名なアスリートが誘惑に駆られ、スポーツ界を震撼させてきました。また、賭博行為がプロ野球界に深く潜入していることも話題になっています。もしも皆さんがこのようなものに手を染めることがあったら、大学は決して許しません。この大学から「退場」を命じます。健全なスポーツの世界を汚染する権利は「なんびと」も持つていないからです。

最後に、二〇二〇年に東京でオリンピックと。パラリンピックが開催されますが、

この地で多種多様な文化の交流が華々しく展開されることでしょう。人種や言語や宗教が異なるうとも、国際社会にあつて、スポーツは人間ひとと人間ひととの差異ちがいを認め、理解しあうことのできるツールの一つです。日体大への入学を好機と捉え、青雲の志を以て、世界の人びととの交流の輪を積極的に作り出し、スポーツを通して豊かな未来社会を切り拓られんことを、新入生の皆さんに期待して、式辞といたします。

平成二十八年四月三日

日本体育大学

学長 谷釜了正